

磯子七福神めぐり

磯子七福神は、大正7年（1918年）に磯子区・南区の七つの寺社に祀られ、当時、近郷の参拝者が巡拝して賑わっていました。

当初は、岡村天満宮、稲荷社（埋地・磯子浜）も講中内でしたが、何時の日か、現在の高野山真言宗の七つの寺院に祀られるようになりました。

戦乱、戦後で一時途絶えておりましたが、昭和53年（1978年）磯子区制施行50周年記念を契機に、磯子区青少年指導員協議会が各寺院・神社と磯子区体育指導委員連絡協議会（当時）の協力を得て、歴史・文化の研究保存、ふる里意識高揚と体力・健康保持のために約9kmの歩行順路を作りました。

磯子七福神めぐりは、初詣として岡村天満宮を含め8か所を一巡りするコースを設定し、毎年正月の第一または第二の日曜日（雨天中止）に磯子区役所・根岸坂下公園・磯子小学校・岡村中学校・岡村西部自治会館の5か所から午前9時頃出発し、半日かけて巡ります。

七福神の神々は、インドの守護神である毘沙門天・弁財天に、中国の高僧である布袋・寿老人・福祿寿、並びに日本古来の神である恵比寿とインドの大黒天と大黒主命と合体した大黒様です。私達の先祖の人々が、現世に求める欲求を満たす七つの福徳を授けてくれる神々を選び、お参りする風習がありました。

巡拝は、平安時代の末期頃より始まり、江戸時代の全盛期には、お正月行事として欠かすことの出来ない行事となり、明治・大正・昭和の初期まで続き、近年、復活し始めました。

周辺には、横浜港北七福神・三浦七福神・逗子葉山七福神・東京隅田川七福神、遠くは、三河七福神・長野伊那七福神・淡路島七福神等があります。

弁財天は、インドの神で万物を破壊する洪水の力を神格化したもの。琵琶楽器を持っているので、音楽・学問・芸能・商売の福徳施与を願う神様。また、弁才天とも書く。



毘沙門天は、須弥山の四方を守る四天王の一人。インドの守護神で、武人の神で宝塔・宝棒は財産、富貴繁栄と勇気を受けてくれる神様。また俱毘羅と言い施福の神とも言われている。



布袋は、中国の名僧布袋和尚で、弥勒菩薩の化身と言われ、額は広く、身を太く短く、ふくよかな腹を持つ円満な相から、夫婦円満、功徳を施す神様。



恵比寿は、日本古来の神様で事代主命や、海原に放たれた蛭子神の化身とも言われ、海の幸を司る神と言われるとともに、エビス・夷は、北海道のエゾと同名で、国土の原住民の神ともいわれ、家内安全・家運隆昌・商売繁盛の神様。恵比須とも書く。



福祿寿は、中国の北宋の道士という説と、南極星の化身という説がある。人間が求めている「福と禄と寿」。福は幸福・家内安全、禄は俸禄・収入・地位、寿は長生きを望む三つの願いを叶えてくれる神様。



寿老人は、中国の老子が天に昇り仙人になり1500歳の長寿を保ったという説と南極星の化身という説がある。人が永遠に長生きしたいという願いから出現した神様。



大黒天は、憤怒の相貌から武人の神、また食物を司る神といわれ、日本に渡り大黒主命と合体し大黒様といわれ、その円福にあやかり、家内安全・勉学の神、米俵に乗っているため、山の幸の神、小槌を振り上げているため、財宝の神とされ、商売繁盛の神様として、江戸時代より、恵比須様とともに、海の幸・山の幸・金銀の財をなすように一対で、神棚に祭られている。



巡拝コース・徒歩9km

【根岸地区コース】

坂下公園・密蔵院（布袋）－真照寺（毘沙門天）－金蔵院（弁財天）
－岡村天神－金剛院（大黒天）－寶生寺（寿老人）
－弘誓院（福祿寿）－宝積寺（恵比須） 解散

【滝頭地区コース】

岡村中学校・真照寺－金蔵院－密蔵院－宝積寺－弘誓院－寶生寺－岡村天神
－金剛院 解散

【岡村地区コース】

岡村西部自治会館・岡村天神－金蔵院－真照寺－密蔵院－宝積寺－弘誓院
－寶生寺－金剛院 解散

【磯子地区コース】

磯子小学校・真照寺－密蔵院－宝積寺－弘誓院－寶生寺－金剛院－岡村天神
－金蔵院 解散

【区役所コース】

磯子区役所・金蔵院－真照寺－密蔵院－宝積寺－弘誓院－寶生寺－金剛院
－岡村天神 解散

文責 渡部 近司
発行 磯子区青少年指導員協議会

★磯子七福神めぐり 周辺MAP★

